

ANA Cargoが沖縄貨物ハブネットワークをPR！！

～日本全国の特産品を高速輸送でアジアへ～

シンガポール事務所

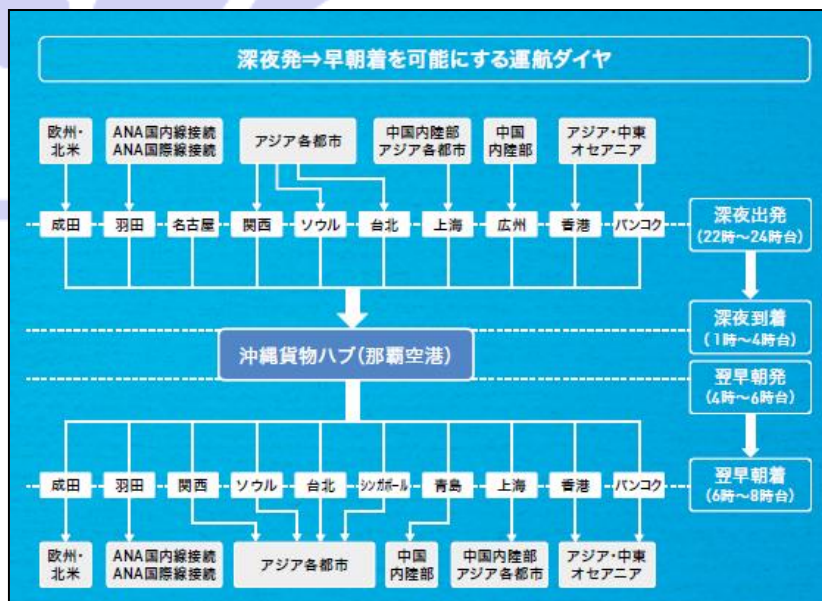
古くから、沖縄はアジア諸国を相手に交易・中継貿易を行い、万国の津梁（＝世界の架け橋）としての役割を担い、繁栄してきました。そして、アジアの経済発展にともない、東アジアの中心に位置するという沖縄の地理的優位性が今再び、注目されています。沖縄県では舞台を海から空へ広げて日本全体とアジアの発展に貢献する「21世紀の万国津梁」をめざしています。

この度、ANA Cargoと沖縄県がシンガポールで開催した国際物流セミナーを取材しましたので、概要を報告します。

1 ANA 沖縄貨物ハブネットワークの優位性

沖縄には、飛行4時間圏内にアジアの主要都市ほとんどが含まれ、人口20億人の巨大マーケットの中心という地理的優位性があります。

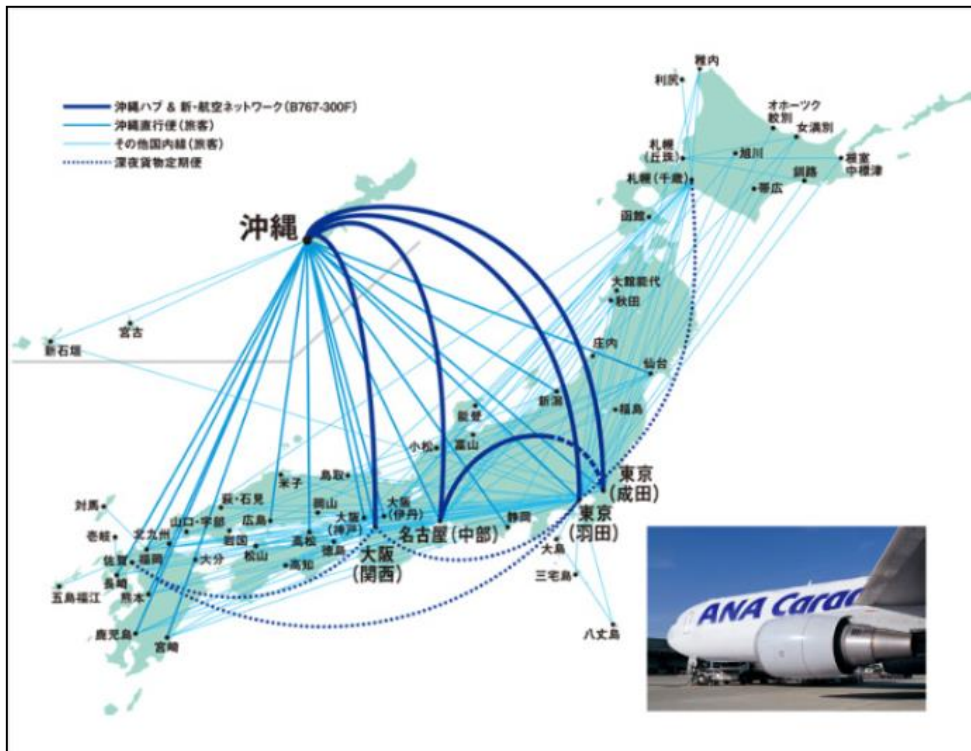
ANA Cargoは、独自の「沖縄貨物ハブネットワーク」により、アジア各地から集めた貨物を短時間で効率的に積み替え、深夜発・早到着の高速輸送を実現しています。国内主要4空港とアジア主要8空港との接続で、アジア域内間の輸送をスムーズに行うことができ、シンガポール便も2014年5月に就航しています。



2 沖縄貨物ハブを利用したビジネスモデル

ANA グループの充実した国内線ネットワークと沖縄貨物ハブを組み合わせることにより、地方発着の輸送も「遅い集荷、早い配達」のニーズに的確に対応することが可能です。

ANAグループの充実した国内線ネットワーク



【沖縄中継モデル】

■24時間通関・中継機能により、圧倒的に有利なリードタイム、カットタイムを実現し、日本⇄アジア間、アジア⇄アジア間の翌日配送が可能。

■那覇空港及び羽田・成田・関西との豊富な航空ネットワークとの接続により、地方都市からアジア都市への翌日配送が可能。

すでに北海道の海産物や静岡県の特産品が沖縄貨物ハブを活用し、新鮮な状態でアジアの市場に流通しており、その動きは全国に広がりつつあります。

食品以外にも、付加価値が高く、かつ緊急輸送が求められる精密機械部品などを、日本から海外の生産拠点に迅速に輸送できます。

沖縄中継モデル



24時間通関・中継機能を活用し翌日配送を実現

【沖縄在庫モデル】

■アジアの中心・沖縄に物流拠点を確保することにより、深夜受注でも翌日配送が可能な物流モデルを実現。

■アジアのニーズに対応しながら、日本品質での受注・輸送が可能。

■各地の在庫拠点を沖縄に集約することで物流を効率化。

■地震の少ない沖縄拠点の活用でリスクを分散、BCP(事業継続計画)に貢献。

沖縄在庫モデル



沖縄に物流拠点を設け、様々なビジネスモデルを展開

在庫モデルを活用した企業進出も始まっており、例えば、東芝自動機器システムサービスは、沖縄県が那覇空港近くに設けて、ヤマトホールディングスが運用する海外配送拠点から部品配送を行っています。

3 おわりに

2014年の那覇空港の国際貨物取扱量は約18万5千トンで、沖縄貨物ハブ運航前の2008年から約100倍に伸びており、全国4位の取扱量になりました。

一方で、県産品(食料品・飲料)の輸出額は約2倍に留まっているという課題もあります。沖縄貨物ハブによって物流が整備された今、県内企業の海外進出や販路拡大などの支援のほか、日本全国から特産品を集めて輸出拠点化を進める必要性が高まっているとの声が、ANA Cargoと沖縄県の双方から聞かれました。

沖縄県は、日本食品の海外販路開拓・拡大に繋げようと、国内外のバイヤーを招へいして2014年11月に第1回沖縄大交易会を開催するなど、貨物ハブをさらに活性化するための取り組みも進めています。

ANA Cargoと沖縄県がタッグを組んで始まった沖縄貨物ハブが今後どのように発展していくのか、シンガポール事務所でも、その取り組みを追っていきたいと思います。

Accelerate Your Business with ANA Cargo

-The International Logistic Seminar- の概要

期日	2015年3月10日(火) 16:00~20:00
開催場所	MARINA BAY SANDS EXPO & CONVENTION CENTER
主催	株式会社 ANA Cargo
協力	沖縄県、シンガポール国際企業庁

参加者

物流・食品関連企業関係者、シンガポール政府系団体・日系団体等 55人



熱心に説明を聞く参加者



ANA Cargo貨物機の模型も展示された

(与那嶺所長補佐 沖縄県派遣)

